

長野県立中学校の適性検査に対する外部評価結果の概要について

教 学 指 導 課

1 問題の内容や量、難易度等について

中学校入学後に求められる思考力、表現力、判断力等を見ることが出来る総合的な問題とする方針、生活や学習場面、身の回りの事象を基にした内容は適切である。

適性検査 では、文章での場面設定が長くなりすぎないようにしたい。出題する領域や分野について各設問でみる適性を明確にして、じっくりと考える時間が確保できるようにしたらどうか。

一人一人の適性を見極める検査にするためには、正答率が 90% を超す小問を多くしすぎないようにする必要がある。また、無答率の高い小問については、解答データに基づく原因の分析が必要である。

適性検査 と は、結果の相関分析から、一人一人の適性を異なる側面からみるものとして妥当である。

2 問題の様式（問題冊子及び解答用紙の大きさや形式、文字や枠の大きさ等）について

問題冊子及び解答用紙の大きさや形式、問題文の文字の大きさや解答用紙の枠の大きさ等、いずれも適切である。

問題文と質問文の違いが分かるレイアウト、質問文と資料をできるだけ同じページ（見開き）にする配置など、より見やすくなる工夫をしたい。

3 その他

会話文等の表現や質問文の言葉遣いについて、例えば、「ふまえて」を「参考にして」とするなど、小学生にとってより適切なものとなるようにしたらどうか。